

2023年度 学校法人 三幸学園 沖縄こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 飯島聡平

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 宮良利恵子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

教務目標「愛校心を持ち、人間力と保育基礎力を持った人材育成」

2023年度退学率は7.1%であった。昨対比+2.4%となった。

当法人の全分野平均8.7%、こども分野全体の平均が7.8%につき、それに比べると好結果のように見えるが、昨年度、一昨年度と退学者が増加していることを重く受け止め、2024年度に反省を活かしたい。

退学理由については、目標喪失が38.1%と最も高く、次いで進路変更(就職)26.5%、人間関係24.1%、心神耗弱19.8%となった。例年退学者が最も多い学年である1年生については、前年度12.0%だった退学率が13.1%とさらに1.1%増加した。卒業を控えた保育科2年生の退学率が4.3%(前年度4.2%)と悪化したことについて、授業内容の改善が求められる結果となった。

2024年度は、引き続き継続した退学率低減を目指すことはもちろんだが、生徒が毎日通いたくなる学校となるよう、魅力ある授業づくりや過ごしやすい環境づくり、又こどもを常に感じるができるよう前年度より更に「沖縄こども保育園」や「泊認定こども園」「その他地域との連携」を強化し、目標喪失とならないよう実践力の強化に努め、教育理念である「技能と心の調和」の元、技術のみならず心が通う教育を実施していきたい。2024年度は更なる授業力向上に向けて授業力向上研修の実施やメンバー、講師のコミュニケーション強化を図り、生徒情報共有や相乗効果を果たすこと、多様な生徒も増えているため、教室以外での自身の居場所を確保できるよう環境設定を強化する。

② 学校関係者評価委員会コメント

宮良委員(こども総合学科・保育科): 実習中または実習後、保育分野・業界が好きかどうかの判断をする

学生がいるように見受けられるように感じる。(実際の現場の動き、仕事での責任を感じて自信を無くしてしまう学生がいる)

山下委員(こども総合学科・保育科):イメージと実際(現場)動きの違いによるギャップを感じて辞めてしまうこともあるのではないかと印象を感じるため、ギャップを生まない指導を。

上原委員(こども総合学科・保育科):入学前の分野迷いがあつた学生が辞めている印象。

迷っていた学生も入学後の学生同士のコミュニケーションの取り方次第でモチベーションをあげることができる。

宮良委員(こども総合学科・保育科):実習後退学に繋がるケースが多いので、実習前に学内でこどもと触れ合うだけではない「仕事」としての内容、様子を伝える機会があると良い→ギャップが生じない

・実習などで失敗しても「大丈夫」ということを事前にフォローしておく

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

人材育成像を掲げるものの、非常勤講師へは年3回の全体会議のみとなるため、常勤・非常勤の一体化を図り共通認識のもと教育を行えるように、日頃からのコミュニケーション、リレーションを強化していく必要がある。

② 今後の改善方策

教職員のコミュニケーションツールアプリを活用し、日頃からタイムリーに情報を共有できるようにする。また、全体会議では教職員の一体化を強化する研修を行う。生徒や保護者に対しては、保護者会や学期初めに通信文書を送付し、学校の取り組みを発信する。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

宮良委員(こども総合学科・保育科):忙しい時こそ、対面でのコミュニケーションをとる時間を作ることは大切だと思うので、先生方同士の意見交換を行い引き続き共通認識のもと学生指導ができるようにしていただきたい

山下委員(こども総合学科・保育科)教員間のコミュニケーションツールはコロナ過を通じてIT化が進んでおり、弊社においても活用をしている。適切に活用していく事が望ましい。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

概ね項目毎に適切な運営が出来ている箇所が多いが、コンプライアンス体制については教職員全員の意識と行動が高いレベルというには未だ管理や研修が必要な箇所があると感じられる。また、情報システムについても各部署で取り入れているが、未だ ITリテラシーの理解度、運用が様々である事から課題があると認識をしている。

② 今後の改善方策

学園本部からコンプライアンスに関する研修や資料を学内会議にて共有し教職員全体の意識と知識を向上させるよう実施する。

情報システムについては現状使用しているツールの使い方は慣れてきている為、授業やその他教務で使用できるツールの紹介、今後 ICT 教育をうけた経験のある入学者が在籍する事も踏まえ、システムの使用について研修も実施していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

宮良委員(こども総合学科・保育科): 目先のことを気にする日々の危機管理対応、対策はできているが、広い視野、長期的な意識付けなどが行える研修などがあるとよいと思う

山下委員(こども総合学科・保育科) 同様に目先のリスク管理はしていると思うが、体系的、個別的に対応をしていった方が良い。

上原委員(こども総合学科・保育科)園でも同様に都度対応はしているが、事例やシチュエーションを想定しての対応といのは出来ていない事も多いため、学生目線から考えても知識を知っておいた方が良いと感じる。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修実施が少ない。

② 今後の改善方策

業界との繋がりが持てるように、インターンシップの実施と業界連携活動の機会を増やし強化する。
園長連絡会を継続して開催し、学校と園の連携強化を図っていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

宮良委員(こども総合学科・保育科):園長連絡会などでの情報共有を今後も専門学校も含め行っていきたい。
上原委員(こども総合学科・保育科):実践的な授業(沐浴等)が多くあると良い。知識も必要だが実践的なことの方が現場で活かせることが多い。→学生のうちに経験しておくことで社会に出た時の自信に繋がる
・専門学校との連携(校舎内の散歩)は園としても良い影響を受けている →園児の給食の進みが良い、お昼寝の睡眠の質の変化など

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

① 課題

継続的な退学率の低減

卒業生への情報発信やフォローは不足している。

② 今後の改善方策

退学率軽減に向け、現実的な数値目標の設定や、学生状況の教職員間の情報共有、養護教諭も含めたサポート体制の強化を図る。

実習巡回で得た卒業生情報をリスト化し、重要な項目を教職員間で共有。在校生の指導へ生かす。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

上原委員(こども総合学科・保育科):在学中コミュニティを狭くしていた学生こそ、卒後学校で集まる機会があれば意見交流をするきっかけになる可能性もある

卒業生の研修会、保育グッズ作成会などがあると良い

宮良委員(こども総合学科・保育科):在学中に作ったものを学校に保管しておき、卒後必要な時に卒業生に現場で使用できるよう貸出可能にしておくといのでは。(エプロンシアターや紙芝居など)

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

再進学者に対する教育環境の整備を強化する必要がある。

学生のニーズに合わせた進路活動を展開できるよう、就職先の開拓が必要。

② 今後の改善方策

再進学者に対しての交流会や相談会などを実施する。

保育園、幼稚園、認定こども園のみならず、保育の学びを生かせる新規求人の獲得、および就職指導を行う。

③ 特記事項

教育訓練給付金対象者 1名

委託訓練生 2名

④ 学校関係者評価委員会コメント

上原委員(こども総合学科・保育科):言葉使いの指導(面接対策)や敬語など実際に勤め始めてから困る事もある、日常の学校生活や普段から使い続けることも大切

宮良委員(こども総合学科・保育科):電話対応の仕方を知らなくなっている世代の為、電話対応の方法も指導し実際に起こりえる様々なシチュエーションで対応を可能にしておくことが出来ると良い。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

施設・設備の更なる整備が課題。

④ 今後の改善方策

施設設備の経年劣化も進んでいることから、ピアノ、プロジェクター等の備品をリニューアルし、ビルメンテナンス企業様との連携を強化していく。

② 特記事項

年間2回の沖縄こども保育園との合同避難訓練実施。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

山下委員(こども総合学科・保育科):定期点検を通して今後も学習環境の整備を協力して行っていきたい。

宮良委員(こども総合学科・保育科) 特段要請などはないが、施設の整備には今後も対応していただきたい。

上原委員(こども総合学科・保育科) 教育活動の項目同様併設園、近隣園も使用できる施設開放など実施していただけると良い。

(7) 学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

定員充足率を100%にする

② 今後の改善方策

広報活動の更なる強化。

③ 特記事項

一般社団法人沖縄県専修学校各種学校協会に加盟し、同会で定められた生徒募集ルールに則り取り組んでいる。併せて、生徒募集専門部署である沖縄広報室を設置し、募集活動に取り組んでいる。

⑥ 学校関係者評価委員会コメント

宮良委員(こども総合学科・保育科)

特に要望などはないが、今後も適切な募集活動を通じて学生募集に務めて頂きたい。

山下委員(こども総合学科・保育科)

特に要望などはないが、今後も適切な募集活動を通じて学生募集に務めて頂きたい。

上原委員(こども総合学科・保育科)

特に要望などはないが、今後も適切な募集活動を通じて学生募集に務めて頂きたい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023年度～2027年度)の初年度にあたる。今後は当該計画の進捗状況等の公開に向けて着手していく予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

宮良委員(こども総合学科・保育科)

特に要望などはないが、安定した基盤に基づく財務状態を維持していただきたい。

山下委員(こども総合学科・保育科)

特に要望などはないが、安定した基盤に基づく財務状態を維持していただきたい。

上原委員(こども総合学科・保育科)

特に要望などはないが、安定した基盤に基づく財務状態を維持していただきたい。

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

④ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

宮良委員(こども総合学科・保育科)

特に要望などはないが、組織としての法令遵守には務め運営をして頂きたい。

山下委員(こども総合学科・保育科)

特に要望などはないが、組織としての法令遵守には務め運営をして頂きたい。

上原委員(こども総合学科・保育科)

特に要望などはないが、組織としての法令遵守には務め運営をして頂きたい。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

今年度より沖縄県委託訓練の対象校となった(定員 10 名)。定員充足率を上げていく。

② 今後の改善方策

委託訓練の定員充足率 100%を目標に、社会人向けの SNS や HP を利用した広報活動を積極的に行っていく。

FC 琉球様との地域連携活動を定期的に行う。新たに琉球ゴールデンキングス様との地域連携活動も行う。

③ 特記事項

沖縄こども保育園の園行事ボランティア実施

太陽のえくぼ様との地域連携ボランティア実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

宮良委員(こども総合学科・保育科)(認定こども園の方でも連携をしていただきたい。「ゆいの日」実施情報公開をしていくので今後も学校側とも連携をできれば良いと考えている。

上原委員(こども総合学科・保育科)授業連携のひとつに「お誕生日会」の出し物を学生に実施してほしい大きな行事だけでなく、日常的に関わる機会を増やしていくことが望ましい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校関係者評価を通して以下の点が主な内容となる。

- ①学習意欲をどう継続するか。学習内容や実践的な授業などは勿論大事ではあるものの、友人関係や居場所づくりなど学ぶ環境をどう設定するかが基礎として重要である。
- ②卒業後の学ぶ直し、卒後支援の場の提供など在学中だけに限らず生涯の学び舎としての機能を学校が備えているとより多くの対象に地域貢献、社会貢献が可能になる。
- ③授業を理論で学ぶことは大事だが、やはり演習実践を通して“出来る”ようになる事が重要である。体験型の学びをどう構築していくかが大事である。
- ④地域連携としてより開かれた学校づくりを如何にするか、卒業生以外にも地域や社会にも活用して頂くようなイベントや保育製作物の貸し出しなど今後は検討していけると尚良い。
以上4点を大枠の取り組みとしてとらえ、今後の学校運営に活用していく事とする。

以上